

大阪府立千里高等学校
平成30年度 第2回学校協議会 会議記録

○ 日時 平成30年11月7日(水) 16:00~17:00

○ 会場 校長室

○ 出席者

(学校協議会委員)

和田 良彦 大阪教育大学 教授

高木 学 江坂・起業家センター代表取締役

大森 万峰子 千里高校 学校薬剤師

(学校側)

校長 天野 誠 事務長 青枝 久仁子 首席 大西 千尋

進路指導部長 本間 直也 総合科学科長 牛久保 徹 SSH主担当 岩井 清

(事務局)

教頭 山下 尚紀 教育情報部長 松井 活夫 教育情報部 原田 公彦

○ 議事概要

1 S G H・S S Hの取り組み

(1) S G H事業 今年度は《つなぐ》をキーワードに取り組みを実践している。

- ・2年課題研究『探究』: 分野決定の時期を早め、1年末に希望調査を実施。
- ・3年『トピックスタディズ』: 大切なことは教えない、というスタイルでより探究的授業を実施。
- ・企業訪問研修: 質問を事前に送付、活発に質疑応答を行うことができた。また企業からもディスカッションやディベートなどのスタイルの提案があった。
- ・評価: 卒業生への追跡調査を実施。課題研究の経験が大学の学びで役立っていることが明確になった。また本校の長所・短所についての率直な意見も収集できた。

(2) S S H事業

- ・アントレプレナーシップ: 米国で現役の起業家の講演やワークショップに参加し、課題について解決案を議論し、英語でのプレゼンテーションを行った。起業家精神に対する理解と洞察が深まった。
- ・F S G: 予想を大きく上回る200名以上が希望し、特に海外研修への関心が高い。

2 授業研究の取り組み

教員研修① 「本校が大切にすべきもの」: 今後の研修旅行を題材に実施。国際科学高校として海外研修旅行の継続を確認。

教員研修② 「新教育課程の勉強会」: 校長より「総則」についての解説。各教科で伝達講習の報告と協議。

教員研修③ 「授業研究会」: 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け12月20日5時間目に1年生全クラスを対象に実施予定。

3 進路指導状況

スタディサポートおよび模試の結果を基に各学年の現状と課題を報告。

4 非常災害時の備えについて

生徒用備蓄整備: P T A会費より30万円を計上。購入品は今年度中に決める。

職員用備蓄整備: 今年度中は難しい。来年度に検討

○ 協議

1 SGH・SSHの取り組み

SGH事業終了後の取り組み：2つのタイプ（ローカル型とアドバンス型）が検討されている。詳細が明らかになった時点で千里高校として対応を検討したい。

2 授業研究の取り組み

目的意識をいかにもたせるか、いま学ぶ意味をどう理解させるかを研究すべき

授業研究について生徒のアンケートも活用すべき

教員自身の働き方改革についての勉強が必要。家庭教育や社会教育が学校に委ねられており教員の負担増につながっている。生徒や卒業生の保護者に部活道指導の依頼を検討してみてもどうか。

3 非常災害時の備えについて

学校間での状況の違いがあるので他校と足並みを揃える必要はない

食料の備蓄は入学時に購入してもらい卒業時に返すのはどうか。

2 SGH 報告

→ 指定4年目にあたる今年度は卒業生に対してアンケートを実施（SGHの取り組みが進路選択に関与したか等）。また海外協力校を作る。課題を解決する学習を通して創造的提案力を高めたい。

3 SSH 報告

→ 2年目。核になる生徒（SFG）を募集したところ200名の希望があった（去年は60名）。意欲を持続できる取り組みを展開したい。

協議

教員の指導力向上のために必要な取り組みは

→ 新学習指導要領を踏まえた、具体的な指標作りが必要である

生徒のセルフマネジメント力を高めるためには

→ 卒業から逆算し勉強と部活を調整しながら、いつ、何を、どのように行えば希望が叶うのかを計画・実行できる指標が必要。外務省の出前講座など外部講師も利用し、生徒の将来像確立を促進すべき。

不登校生徒について

→ 学生ボランティアなど、生徒にとって年齢の近い存在を活用し、相談に応じる方法もある。